

カトリアお母さんとの
エロスな日々



カレアお母さんとの エロな日々



とある町の武器店の女将
カトレアさん。
優しく美しくそれでいて
どこか寂しげな淑女。
夫が行方不明にも関わらず
女手ひとつでこの店と愛息子を
守り通す彼女の姿に
いつからか俺は惹かれていた。
足繁く通ううちに彼女も
俺の顔を憶えてくれるように
なっていた。

あら
いらっしやい。

今日は色々
新しい品が
入ってるわよう？

カトレア

ある時俺はカトレアさんが垣間見せた隙につけこんで彼女に迫り口説きたおし半ば以上無理やりにその豊満すぎる女体を組み敷き獣欲の牙を突き立てた。想像を絶する程にとろけた柔肉の味に俺は目眩を覚えながらも吠え唸り必死に股間を叩きつけむしゃぶった。

カトレアさッ…
ご、五発目ッ…
おうウウツツ

じよっ
常連さん…あ、
もっ、もっ…ッ

ぎしっ♡
ぎしっ♡

ははは
ははは
ははは

くうんッ

んちゅ

ぎし

アッ
アッ
アッ

びゅん♡

ゆる♡

ん♡

ん♡

アッ
アッ
アッ





まっ...

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

は。

まっ...まだ...
済まない...の...?

嫌ッ...
熱ッ...
多ッ...
入ッ...♪

ももっ
許しッ...

はっ、はいッ
カトレアさんの
良過でッ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

あま...
やせ...
やせ...

彼女がその気ならば俺など容易くいなして退けただろうが
口でこそ拒否の意を示してはいたものの、実際には
無抵抗そのものに、求められるまま体を開いてくれた。
余程夫のいな生活に耐えかねていたのだろう。
特に飢えて乾ききった肉壺は俺の青臭い獣液の最後の一滴まで
飲み干さんと牙なき餓鬼のごとく俺自身に吸い付いてきた。
彼女の『そこ』に俺が濁り粘った牡のミルクを振舞うと
『それ』は瞬く間に嚥下し、尚物足りなげに執拗に粘膜を絡み付け
俺の陰囊で作られた更なる子種を懇願してくるのだった...



こうして俺は憧れだったカトレアさんの
熟れた肉体にのしかかり盛りのついた犬のように
腰を振りたて『それ』を貪っただけでなく
今まで募らせてきた想いのたけとともに
たっふりと精虫の蠢く粘液を子宮めがけ
やりたい放題容量の限界まで撃ち込んで
その肉の隅々にまで俺との行為の痕を刻み付け
俺の肉欲の証を熟肉の奥まで染み込ませた。

それから彼女との関係が
はじまったのだった…。

某月某日
とある冒険の末
ヒノモト国に伝わる
伝説の武具『せえらあ服』
を手に入れたので
彼女にプレゼントする。

か赤あ〜

せっかくももらったし
…いちおう
着てはみたけど…

でも、これって
もっと若い子が着ないと
似合わないんじゃないかしら…？

ゆえ

おっ

ダイ・モールト
(非常に)！
命かけて
冒険したかった
ダイ・モールト
ベネ(よし)ですよ
カトレアさんツツ





カッ：
かカカか
ツツ

カトレアさ
ンツ

（しよ
うん）

あッ……！！
常連さん……
だ、ダメよっ

……ちや
……ちやんと……

……
……
……
……
ね……？



はあ、はあっ……
すみません
俺、また臆内に
出しちゃって……

……
……
……
……
知りませんっ

もじ
……♡

もじ
……♡

某月某日
 カトレアさんがさぞ
 日々の仕事で疲れている
 ことだろうと
 風呂場で体を流して
 あげようとする。

えーっ
 で、でわっ
 カトレアさん…

お、おっぱは…
 いや、お尻…
 じゃないっ
 背中を流しますからねっ
 さあっ！

はぶっ
 はぶっ

はぶっ

ツ…おオオお
 ツツツ

この…
 いいか…
 ものすごいゲダモノの
 匂いが思いついて
 しょうがない
 じゅる…

…
 …
 …

→キキキ



カトレアさんツ
カトレアさんツ
ヴツ♪オヴツ♪
ヴ…ツヴツ
…♪

あ

ド
ド
ド
ド
ド

ド
ド
ド
ド
ド

あ
あ
あ

彼女との日々は続く。



コラム

ここがエロいよ！
カトレアさん
～おっぱい編～

カトレアお母さんといえば先ず誰もが
その巨大な胸に目を奪われるということは
三国志をどの絵師が描いても趙雲はイケメンである
というくらいに永遠不変の事実であります。
乳すなわち母性の象徴（シンボル）で
あるがゆえに
わが母こと人妻戦士カトレアが
爆乳たる事は
ごく自然の有り様なので
あります。
剣を振るうたびに変幻自在に
揺れ動く双丘のミリキは
クイーンズブレイドの
他のヒロインとは一線を画す
と断言する次第です。
それにしてもこれだけ
大きな胸だと色々と
苦勞すると思うのですが
あの世界にブラジャーとか
あるんでしょうか？



カトレアお母さんの胸を語る上で外せないのがしっかりと
胸元の大胸筋が表現されていること。
金子ひらく閣下の並みならぬそのこだわりには
小官などの凡夫は只戦慄を憶えるばかりなのであります。
たとうべきかなマインカイザー。

たくましい大胸筋に
支えられながらも
かつ歳相応にだらしなく
垂れがちなそのおっぱい。
バスト120センチとかその程度で
済むはずがありません。
ブラフ（はったり）だ！
この私にブラフなど
しかけておって…

カトレアフィギュアののおっぱいを
思わずすってしまったマンスキーは
全国百万はくだらないはずだ。

しかしラナくんは生まれた頃から
こんなアルティメットおっぱいに触れていて
大丈夫なのでしょう…
将来が少し不安になります。

ここがエロいよ！
カトレアさん
～腕編～

巨剣を操るためのたくましい
筋肉の上を脂肪が包み込んだ
カトレアさんの腕はもはや芸術。
そのなめらかな腕に思わずかじりついて
たるんだ下側のぜい肉をつまんだり
なめらかなお肌にキスしたりと
ただ愛でているだけで余裕で
一日潰れてしまうこと請け合いですよ。
…もう芸術とか言うより
性器じゃないん
でしょうか。

武器を扱うときにパンプアップした筋肉が
浮き出る瞬間もまた美しい。

よく巷で
「母親の細腕ひとつで…」
という言葉を目にしますが
あれはあくまで
比喻なのであり
母の腕は太き腕という事は
厳然たる真実です。
嘘だと疑われる方はご近所の
スーパーマーケットなどに
出向き、買い物をされている
子供づれのご婦人の方の
その腕を観察なされてみては
いかがでしょう。
ほとんどが美しくふとましき腕の
女性ばかりという事実に気がつくはずで
す。
(注：観察の際は変質者と間違われぬよう
紳士にふさわしき身なりで行く事)
そういうわけで母の腕は
すべからく太くあるものなのです。
つまりカトレアお母さんの腕が太い事は
巨大な武器を扱うから、というだけでなく
母親の在り方を体現しているキャラクターデザインであるからと
私は主張いたします。
ああ揉み揉みナデナデしたい……
腕枕させてもらいたい……

でもいくら腕が太くて
パワフルだからといっても
女性であることには
変わりないのであり
やはり買い物の際などには
率先して買い物籠を持って
あげたりなどするのが
正しい男のあり方だと
思うわけなのです。
でもたまにそんな事忘れて
不機嫌にさせてしまうのが
馬鹿な男の性でも
あたりしますけれども。
さあお母さん、
荷物はわたくしが
お持ちしましょう…
…えっ、巨人殺し10本？



ゲストコーナー

あの絵師さんにカトレアお母さんを描いてもらおう計画
通称プロジェクトK。
今回も凄い方々にきていただきました。
たぶんこちらの方が本編だと思います。
無理を聞いてくださった皆さん本当にありがとうございます。

矩形波さん

描かれるのは常に想像を絶する肉ッ！
期待通りの肉感 300パーセントのカトレアお母さん！
はみ出しまくった肉がダイナマイクグレイツ！
そして私も未だにあのエプロンの構造はわかりません。

禁酒さん

まったく死角の無い若手絵師！僕らの禁酒さん。
電腦コイルで出すよと誘っておいて描いてもらいました。
詐欺・・・？いや、これは戦略。それでもキツチリ描かれるあなたが好き。
神々しささえ感じるスゲエお母さん来た！
これで我々はあと十年は戦える！

梅さん

神の手腕とマニアックな性癖！そんな梅さんをお迎えしました。
実は前回の本用にいただいた原稿でした。
本当に申し訳・・・ない・・・。ぐふっ
こっつタップリとした頼もしすぎるお母さん！
ツボがわかってらっしゃる！らっしゃりする！
きっといつもは私服でしょうけど戦闘時は冬でもあの格好ですよ。

高津さん

またの名を7アンC。気鋭のママン作家が来てくれたッ！
ゲス野郎どもに輪姦されるお母さん。
さすがにエロス度が紙の中から沸いて出るようです。
なっ・・・俺のお母さんになんて事を！んんんんー、許るさーん！
こんな・・・くやしい・・・でも・・・(略)

草津さん

私が学生の頃からお世話になっている(一方的に肉体の一部が)
伝説の人妻漫画家さんにまさか参加していただけたとは思っても見ませんでした！人生は本当にわかりません。
もう脇の跡とか匂いたつエロスがエロスすぎます。
これは俺の武器も試さざるを得ない！

何かできるとは
ものすごい圧力



カトリアの大きさを表現する為に
比較対照として小さいムスコが
オブションみたいに居るのが
良いですね
良いですねったあ良いですね

ピンチの際には
纏めたる筋肉をモリモリ隆起させ
ムスコを守ると信じて疑いません
もちろん防具破壊は基本です。

結局最後までカトリアのエプロンの
デザインが把握できなかった…。





冬とか
寒くないの
だらうか...

梅



おー…出る出る
なあ次は
ま〇こに出して
見ねえ？

っあー…
スゲー出た
そうそう
皮の中のもの
絞り出して…

やりてーけどさ
そこまでは流石に
マズイんじや…

オイオイ
俺の親父に頼めば
こんな小っせえ店
潰せんだぜ？

…ってのはもう
わかってるよね？
カトレアさん♪

それもそうだな
あ俺ケツの穴
もーらいつ

カトレアお母さんは早く
領主の息子とその悪友達（中2くらい）に脅されて
慰み者になっちゃうべきだと思う
あとラナは領主の奥さんのペットに
なっちゃうべきだと思う
俺は病院へ行くべくだと思う

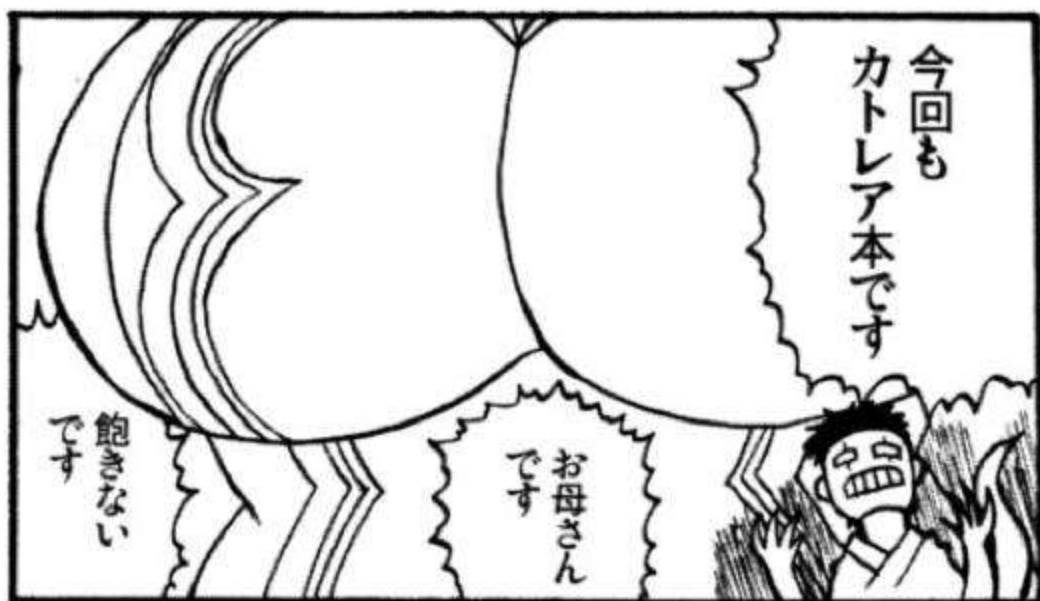


どうだい奥さん
俺様の武器の具合は

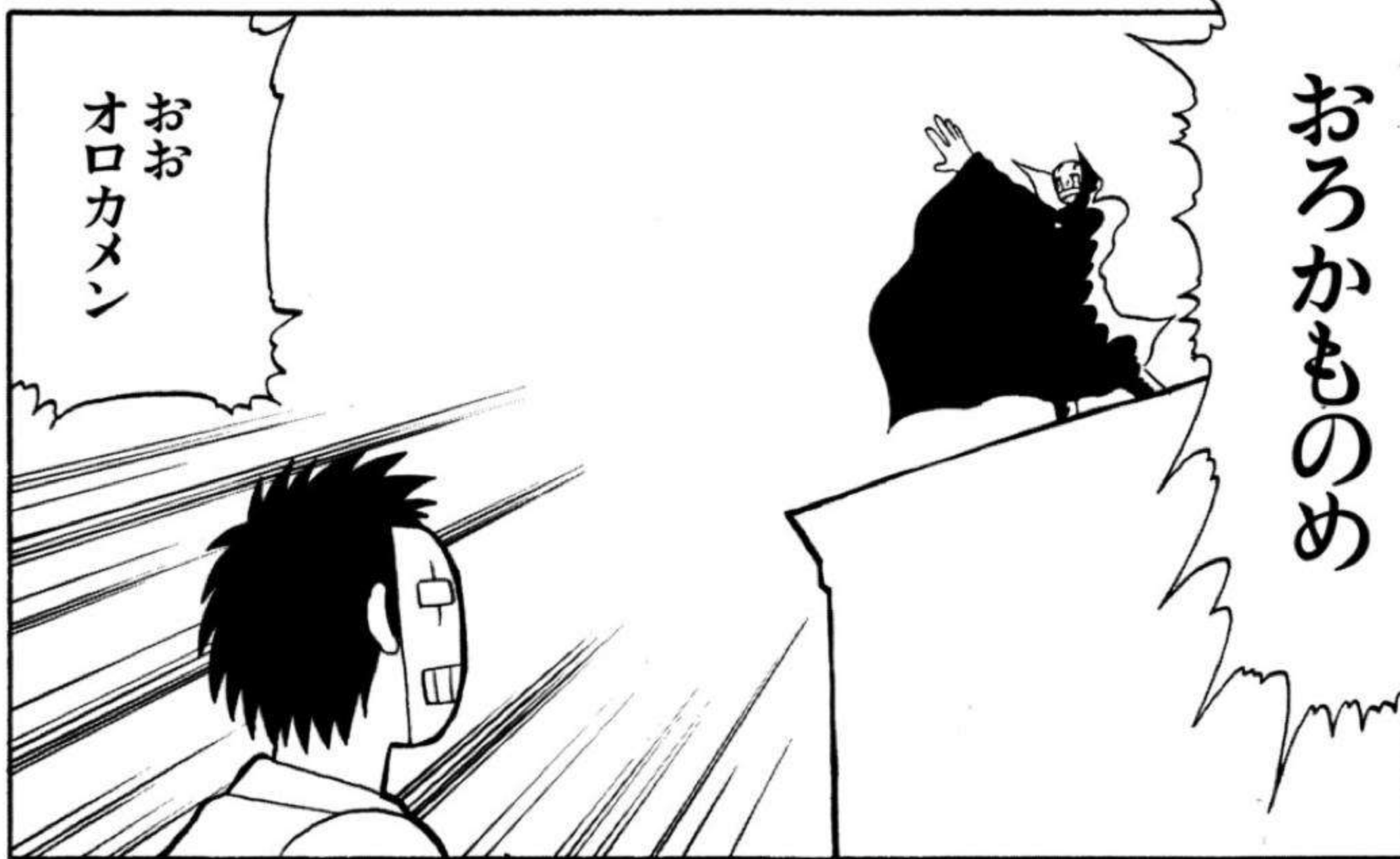
ククク
奥さんいい顔だぜ
すっかり
できあがっち
まってるな



あとがきマンガ
ディープパレーのそんな日々。



本当にありがとっマシました。





精の
はけ口だ

女体だ

肉欲だ

お前が
求めているのは
母などではない



今日は一体
なにを言い
きたのです

母を求める
私の純粋なる心が
いけないとでも



お前がカトレアを
描く理由も
劣情によるものだ

そこに
愛などはない

お前が
惹かれているのは
母などではなく

その豊富な造型と
夫が不在という
設定に都合の良さを
見出しているに
過ぎないのだ



おのれ
悪魔めっ

この今回の原稿で
俺の愛の力を
思い知るが
いいわっ!



……

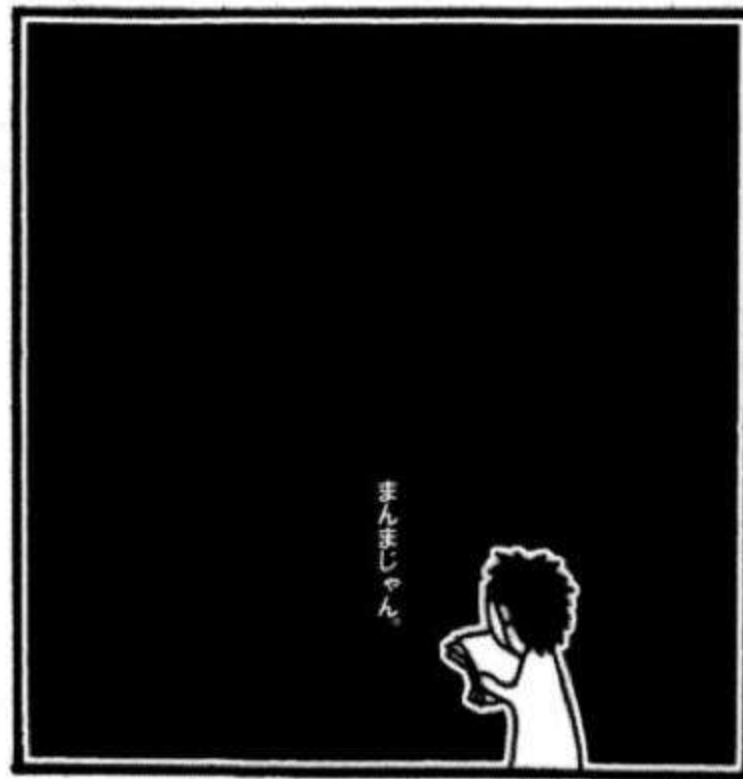


人はパンを
愛するがゆえに
パンを食べる
のでなく

胃の飢えを
満たすために
パンを食らうに
すぎない

己の欲望を
満たさんがために

人の
理念は
存在する



誌名 カトレアお母さんとのエロスな日々

発行 ディープ峡谷

発行日 2008年09月06日 (第二版)

印刷所 しまや出版

(web) <http://deepdesugamuvcnet/>

(mail) deepdesuga@yahoo.co.jp

(mixi) http://mixi.jp/show_friendpl?id=167536



ディープ峡谷

R18